

悠久の昔から紡がれる人々の営みと矜持

「十符の菅薦」

みちのくの十符の菅薦 七符には君をねさせて われ三符にねむ

鎌倉時代の歌集「夫木和歌抄」より



利府町は「十符の里」をシンボルネームとして使用しています。これは「十符の菅薦」に由来します。

利府町菅谷から仙台市岩切にかけての沢辺帯はかつて良質な菅草の産地でした。その菅草を乾燥させて編み上げた「薦」の網目が十筋あることから、「十符」と呼ばれ、完成した「薦」は「十符の菅薦」と呼ばれました。

この「十符の菅薦」は、生活用品としてしばしば都に献上されていたようです。これが都の人々や歌人の目に触れ、平安時代後期から鎌倉時代にかけて和歌や旅日記に「とふ」という言葉が用いられるようになったようです。

この「十符の菅薦」の原料となった菅草の産地であったことから平安時代から鎌倉時代にかけてこの辺り帯は「十符」と呼ばれていたようです。

現在、生涯学習課では町芸術文化協会と協力し、「十符の菅薦復元製作事業」を進め、町内外に広く十符の里の由来、十符の菅薦を知ってもらえるよう活動しています。

秋の十符の菅薦復元体験教室を開催します!

と き 11月19日(土) 午前10時~正午(予定)
と ころ 文化交流センター「リフノス」2階 創作室2
※詳細は後日町のHP、郷土資料館SNSでお知らせします。

文化祭で展示&プレゼント企画をします

10月29日(土)・30日(日)に開催される利府町文化祭において**先着200名様**に利府町芸術文化協会と共同製作した「ミニ菅薦」をプレゼントします!ぜひご来場ください。

また、復元製作は芸術文化協会会員のみならず誰でもご参加いただけます!ご興味のある方はお問い合わせください。



☎ 文化振興・リフノス係 ☎767-2197

ミニ菅薦ができるまで



自生する菅草を刈り取ります。



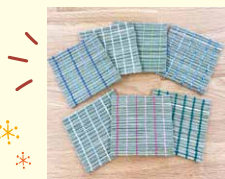
色や長さが適さないものを省きます。



選別した草を束ね、乾燥させます。



乾燥させた草を切りそろえます。



完成です!



両端を切りそろえ形を整えます。



結び目をほどけないようにします。



糸を使って編み上げます。